

利

尻

ル

一

ル



# 利 尻 ル ー ル

近年、登山者の増加により各地の山岳地で登山者のし尿処理、登山道の侵食などが深刻な問題になっています。これは最北の百名山に数えられる利尻山も例外ではなく、携帯トイレの普及活動や登山道整備に力を入れて問題に対応してきました。しかし離島であるが故の地理的条件、火山礫の重なる脆弱な土壌条件を克服することは容易ではありません。また、どんなに整備を進めても登山者一人ひとりが、自分の一歩が山へ与える影響について正しく理解し、自然環境に配慮した行動を取ることがなければ根本的な対策にはならないのです。

「出来ることから始めてみる」、利尻ルールは利尻山のみならず、自然と人とのより良い関係作りのための、はじめの一歩になるでしょう。



## ルール 1

携帯トイレを使うこと

.....



## ルール 2

ストックにキャップをつけること

.....



## ルール 3

植物の上に座らない、踏み込まない

.....

# ドラム缶27本と米俵13俵

一回の利尻登山 (10時間)での排泄量      小 500ml      大 70g      ×      利尻山登山者数      年間約11,000人      =      小 5,500L      大 770kg

これは利尻山への携帯トイレ導入効果の試算です。  
携帯トイレを導入する前は、特に8合目付近にある避難小屋の周辺で排泄物の悪臭が漂い、使用済みのトイレトペーパーが散乱していました。  
実に1年にドラム缶27本の小便と、米俵13俵分の大便が山中に放置された場合の水質や土壌への影響は、山の自然環境のみならず、離島である利尻島においては住民の生活に関わる問題なのです。



フェリーターミナル・各旅館  
町役場・コンビニにて  
400円で販売中

## 携帯トイレを知っていますか？

近年、北海道や東北の山を中心に広がりつつある動き。  
それが登山者による登山者自身での排泄物の持ち帰り運動です。  
これを可能にするのが「携帯トイレ」。  
使い方は簡単で、袋を開けて携帯トイレ用便座に被せれば後はいつも通り。小も大もOKです。  
終わったら口を結んで専用パックに収納します。漏れる心配もありませんし、匂いも出ません。  
利尻山の場合、鴛泊コース・沓形コースともに登山口に使用済みトイレの回収ボックスが設置されているので、使用された方はこちらに捨ててください。  
ドライブのときや非常時の備えとしても有効ですよ。

## もう我慢しなくて良いのです

自然の呼びかけは、ところ構わず起こるもの。  
携帯トイレがあれば、どんな時でも安心です。  
しかし、出来ればそういう事は隠れてしたいと思うのが人情か。  
利尻山では、鴛泊コースに3箇所（6合目・避難小屋・9合目）、沓形コースに2箇所（避難小屋・夜明かしの坂）携帯トイレ専用ブースを設置しています。  
雨が降っても、風が吹いても、周りに人がいてもこの中ならリラックス出来ます。  
是非、この快感をお試しあれ！！

ドンと来い！



## ストックに**キャップ**をつける

「下山後の疲れがちがう」。  
ストックが登山者に普及し始めてしばらく経ちますが、ストックの尖った先端が土壌を掘り起こし、登山道侵食の促進役になって、かえって歩きにくい道にしてしまうという悪循環が起きています。  
利尻山の火山土壌は、手で触れるだけでボロボロ崩れ落ちてしまうほど脆く侵食されやすいので、少しでも登山道の侵食を軽減するために、ストックを使用する際は、先端にキャップをつけてください。

☆キャップは外れやすいので、ガムテープで巻いたり、接着剤でつけておくと良いでしょう。



利尻山は**火山**！！



## 登山道の**侵食**を予防する



利尻山では  
**登山道整備**を行っています

整備前は、足元に火山礫の石ころが転がっていて、スリッしやすい状況でした。  
まだ未整備の部分は同じ状況です。  
こういう場所はスリッしやすいのですが、所々にある石ころの被っていない硬そうな岩を飛び石にすることでスムーズに歩けますよ。

9合目以上の登山道侵食の深刻な箇所には、付近の火山礫を詰めた麻袋を、階段状に設置しています。これにより登山者の足元確保と、登山道の侵食予防が期待されます。  
しかし、麻袋による階段整備は耐久性の問題からあくまで応急処置と考えています。  
歩きやすさという面だけでなく、土壌、生態系の保護や、原生的景観との調和も含めて、根本的にどういう対策を取るのかは、これから試行錯誤して見つけていくことになるでしょう。



# 登山道を踏み外すだけで失われるものがある



写真を撮るのが目的ですか？  
広いところで休みたいのですか？

幾年もの時をかけて、植物や動物たちが自分たちの住むことの出来る土壌を作ってきました。彼らの住む場所にお邪魔させて頂いている私たちが今一度の好奇心で、彼らの生命の堆積を踏みつぶしてしまっても良いのでしょうか？

## 一步の責任



表面を覆う植生の失われた土壌は、雨が降っても水を蓄えることが出来ずに、流されてしまいます。特に利尻山のような火山礫の堆積した山は植物の育つ腐食土壌が薄く、人の踏み込みなどによって腐食土壌が失われると、登山道の浸食がたちまち進んでしまうのです。休憩時の植生への座り込みや荷物の投げ置き、融雪期や雨降り後に、ぬかるみを避けて路肩の植生を踏みつけて歩くこと、写真撮影時の踏み込みなどは、登山者一人ひとりの心がけ次第で防げることですよね。



## 風とともに去りぬ



例えば登山道のぬかるみ対策にスパッツをつける。休憩用に小さなマットを用意する。そんな小さな心配りがあれば良いのです。ローインパクト登山(出来る限り、その土地の生態系、景観に与える影響を少なくする)は、次の世代へこの環境を残すための、われわれに課せられた責務です。知恵と工夫で、風のように颯爽と歩いてみたいですね。

沓形コース上部の三眺山を過ぎると  
目の前に大きく見える赤茶色の壁。  
この崩壊地の直下をトラバースする場所が  
“親知らず子知らず”

## 崩壊地の直下を トラバース

\* 鴛泊コース合流点～山頂間から  
西側斜面への落石は、この区間に落ちます。  
鴛泊コース登山者も充分注意して行動して下さい。

親知らず子知らずを知っていますか？

**要注意！**

**通過中！**

耳を澄ませて、落石がないか確認したら  
途中で休んだりせずに端まで渡る。  
二人以上いるのなら、一人は大岩の  
陰に隠れて監視しよう。  
ザクザクして歩きにくいけれど  
大きな石を飛び石にして進めばスムーズ  
に突破できるはず。  
\* 濃霧時や降雨後は特に危険性が  
高まるので、安易な入山は控えましょう